

ヤマメ放流し環境学ぶ

黒坂石で体験講座

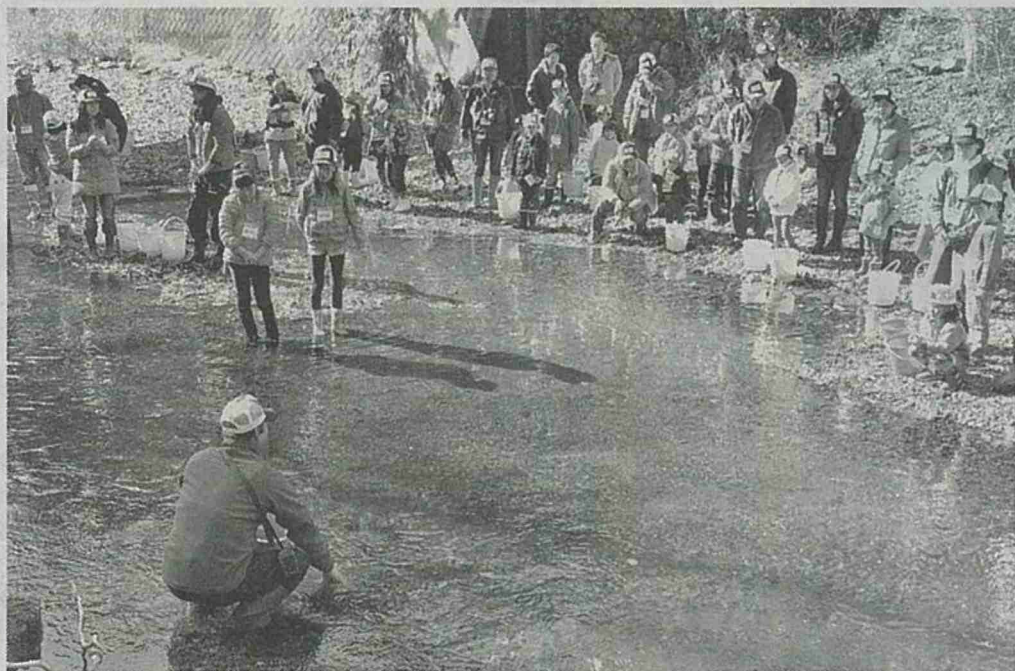
ヤマメの放流を通じ、川と魚と人間の関わりを学ぶ体験講座がこのほど、みどり市東町沢入の黒坂石バンガロー・テント村キャンプ場で開かれた。親子ら総勢約70人が参加し、魚がすみやすい川づくりの大切さを学んだ。

水産業のさまざまな役割を伝える水産庁の「水産多面的機能発揮対策支援事業」の一環で、渡良瀬川と桐生川の漁場を管理する両毛

漁業協同組合(中島淳志組合長)を母体にした「渡良瀬川水系魚ふれあい振興会」が昨年に続き開いた。

参加者は、渡良瀬川支流の黒坂石川に体長10センチ前後のヤマメ約2000匹を放流。手を水温になじませてから魚を触ることなどを学び、成長したヤマメとの再会を楽しみに魚影を見送った。

放流後はヤマメの塩焼きを食べながら、元群馬県水産試験場長の



新井正尚さんが講話。川で生まれ海を回遊し

「魚を触るときは手を水で冷やして」と、中島組合長の説明を聞く参加者ら(黒坂石川で)

生態を語った。中島会長は、ヤマメの産卵を撮影した動画をプロジェクターで見せつつ、魚の神秘を伝えた。

同講座では来年2、3月に、フライ(毛ばり)の作り方と、それを使った魚釣り教室も予定している。問い合わせは両毛漁協(電話・1459)へ。